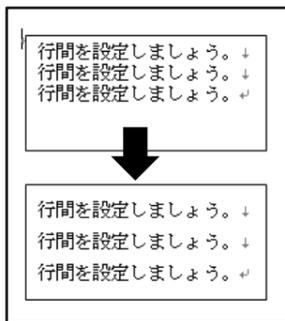


## 目5 行レシピ<チラシづくり編>

「行間と余白を意識してみましょう」。行間は、文字サイズの150%~180%がひとつの目安。余白は、空白と思うと埋めなくなる。余白に積極的な意味づけをして、恐怖感から卒業しよう^^

行間(ぎょうかん)は、行と行の間のこと。一般的に狭すぎても広すぎても読みづらくなります。まず習慣づけたいのは、ワープロソフトの初期設定をそのまま使わないこと、手書きの場合もどれくらい間を空けてつくるか、試してみる。行間は読んでもらえるかどうかの生命線だといっても言い過ぎではありません。

余白(よはく)は、白の余りとも読めますが、この場合は余りではありません。紙面が全て埋まると、作り手には満足感がでてきますが、読み手にはこれほど読みづらい紙面はありません。適宜に余白をとり、読み出しの位置など目線の誘導にも意識しましょう。



## 目5 行レシピ<団体運営編>

「何をやるのか」と同じくらい重要視したいのが「誰とやるのか」。仲間づくりは、共感の度合いをどれだけ上げていけるかがポイントになりそう。相手にあわせた演出にも効果あり。

仲間づくりにおいて重要なのは、あなたの団体の活動の趣旨や目的に対する共感です。既に共感の意思表示をしている人であればお誘いするのは比較的スムーズですが、明確でない人には一定の配慮が必要でしょう。この時点で強引に仲間に引き入れようとする、うまくいかなかったり、長続きしなかったりする場合があります。そして、相手はどの辺りに不安や問題点を感じているのか、じっくり話を聞いてみたり、相手の境遇(年齢やボランティア経験など)に近いメンバーと話す機会を設けたりなど、共感してもらうための工夫やちょっとした演出も積極的に行っていくとよいでしょう。



# The 志免町 まちづくり 支援室

2014.10.31

## Vol.04



最近は「ボランティア」という言葉も浸透し、そして多くの方がボランティア活動に参加するようになりました。

一方で「ボランティア活動を始めたいけど、どうすれば良いのかわからない」という声を聞くこともまだまだあります。

せっかくやる気になったのに、どうすれば良いかわからないと、せっかくのやる気も折れてしまいます。そのようなときの参考になればとの思いで、「ボランティアデビューするための4つの心得」をまとめました。ぜひご一読ください。

# 「ボランティア入門シリーズ」

# 「ボランティアデビュー」

# するための4つの心得



まちづくり支援室は、住民活動を支援し、志免町と町民の皆さんとで協働したまちづくりをすすめるために設置された施設です。専門員(ボランティアコーディネーター)を配置し、NPOやボランティアに関する情報を発信するとともに住民活動に関する相談やアドバイスを行っています。

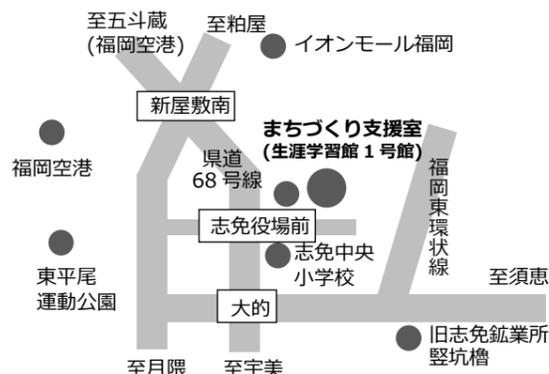


### ■主な役割と設備

住民活動に関する相談やアドバイスを行なうとともに、NPO・ボランティアのさまざまな情報を発信しています。また打合せスペース、チラシ等を作成する印刷機(有料)、団体の活動を紹介する情報コーナーなど、団体の活動で利用できる設備があります。

次号<Vol.05>は2014年12月発行予定です。

- 発行：志免町まちづくり支援室
- 発行日：平成26年(2014年)10月31日
- 編集：NPO法人メディアイド
- 住所：〒811-2244 福岡県糟屋郡志免町志免中央1-3-2 (生涯学習1号館内) TEL：092-936-8626 FAX：092-936-8626 E-mail：collabo@town.shime.lg.jp
- 開館時間：9：00～22：00 (17時以降に利用希望の場合は、必ず事前予約が必要。)



### ■ボランティアの語源

「ボランティア」つまり英語のvolunteerの語源は、古典ラテン語のvolo(ウォロ)を語源とします。voloは「喜んで～する」という意味を持ちますが、ここから「自由意志」という意味を持つラテン語のvoluntas(ヴォルンタース)に派生し、この言葉がもとになって、ボランティアという言葉となりました。

イギリスのオックスフォード大辞典(英英辞典)によれば、17世紀前半のイギリスが起源と言われています。革命の影響で混乱した社会の中で、治安を守るために自主的に「自警団」を立ち上げた人々のことを「ボランティア」と呼んだのが始まりです。